

廃校の足跡

130年の歴史

匠 探訪

— 46 —

市内小学校の中でも比較的早い1874年(明治7年)に開校した飯高小学校が、この3月で130年余りの歴史に幕を下ろします。

「百年の歩み」と題し1975年(昭和50年)に刊行された記念誌により、その足跡を振り返ることにします。

明治5年の学制発布後、市域でも江戸時代からの私塾(家塾)が学校に発展し、飯高小学校の前身も個人宅に約40人を集め、開かれたとされます。

その後の制度改正により

「飯高小学校」と呼ばれるようになったのは、開校から10年後の明治17年のことです。

明治30年代の学校の様子は、「尋常科・高等科7学年で児童は50名足らず、先生は校長を含め3名」「明治28年の日清戦争の時には村境で兵士を見送ったり出迎えたりした」

「同33年になって初めて日帰りで佐原への修学旅行が行われた」などと記されています。

このころから児童数が200人を超え教室不足となり、1992年(明治45年)に新校舎(藤田校舎)に移転しました。校舎建築に

は地区民総出であり、関係した村の職人は「この仕事が終わるまでは他を請け負わない」と申し合わせたとされ、児童たちは完成を祝って旗行列で村内を回ったといえます。「学校での遊びは

コマ回し・メンコ・ボール投げ・陣取り・鬼ごっこ等々で校庭をフルに使って遊んだものだ」「飯高村は当時香取郡に属していたことから現在の多古高校で開かれた陸上競技大会での活躍」など、大正時代に学んだ児童の思い出がつけられています。

戦時中は「六万部開墾地の農場開拓作業」「教室に兵隊が駐在し、校庭が製材所になった」「戦後の食糧難」「勉強したことが全く記憶になく戦争しか思い出せない」と記されています。

戦後復興の中で中学校も開校し、9年間学ぶことになりました。昭和44年4月、飯高中学校廃校により現在地に移転し、校舎改築や体育館、プールなど施設面も充実しました。

沿革をたどると、開校以来地区民と一体となった学校の姿がよみがえります。

「今後百五十周年、或いは二百周年と更に」と記念誌のあとがきに書かれたように35年前、誰もが予想もしなかった飯高小学校の廃校、今静かにその幕を閉じようとしています。

問八日市場図書館 ☎ 73・3746



飯高小学校にある
開校百周年記念碑